

うた ひつじの詩だより

2011, 2, 1
毎月発行 No.119
この頃にはご注文の品と
いっしょにお届けします

ずいぶん日が長くなってきました。友人と会って話し込んでいるときなど、まだまだ窓の外は明るく思っていてゆだんして、時計を見ると「えっ！もうこんな時刻！？」と驚かされます。天気予報は相変わらず雪国の寒波と大雪を伝えていますが、確かに春の足音が聞こえてくる2月です。

2月生まれのまりーさん。手仕事とその周辺の風景を綴る連載「まりーさんのアトリエから」がスタートしました。どうぞご期待ください！



さくらいまさこ作

晴れてうららの関東のお正月、まりーさんは森ガール(?)の仕度をしっかり整えて、しつじのひつじさんと、がらがらどんの角にするツルを採集にでかけました。冬枯れの森は野生のすいかずらや藤のツルが見つかり易くて、用意した袋はすぐにいっぱいになりました。山の頂上の広場では、陸上部の中学生が海に向かって新年の誓いを大きな声で張り上げています。「よっしゃ〜がんばれ〜っ」と、まりーさんも応援します、とその時、空を舞っていたとんびが、ひつじさんと半分個にしたまりーさんのさけのおにぎりを、あっという間もなく、がしっと掴んで行ってしまいました。あらあら。

でも、帰りのバスから眺める葉山の海はきらきら。まあ、いい新年の幕開けと言える1日でした。

あるアトリエでのワークショップの日、いただいた素晴らしいプレゼントに、まりーさんはうれしくて卒倒しそうになりました。上のお人形とうさぎさん達です。禍福はあざなえる縄のごとし、と昔教わりましたが、とんびにさらわれたおにぎりが禍福の禍で、このお人形さん達が福？ いえいえ、そんな！

そして、何と卒倒ものの福がもう1回、1月のまりーさんの元へ。手編みのリストウォーマーです。この編み方が載っている林こみさんの「北欧のワンダーニット」文化出版局刊は、まりーさんの周りの人たちに大人気です。そう言えば、林こみさんは25年も前、編集者としてまりーさんの羊毛の手仕事を、はじめて日本で紹介くださった方です。(オホ) 手仕事好きのご縁はどこまでも福を運んでくれるようです。



はるこさん作 ←色違い→



りつこさん作
まりーさん
ゲット！

エストニアの島、キヒノの
編み物2種



←色違い→
いただくばかりでスママセン、まりーさんもがんばれ！



はるこさん作

ヴィンテージ3年物
(暖かくて手放せません)

ーウォルドルフの手仕事風・おひなさまー

2月は、一番寒い季節ですが、春遠からじとの思いが、昔の女子、まりーさんにセピア色の甘い風の記憶を呼び起こしてくれます。「お雛様、作るっ！」と、突然思い立ちました。ペレのお店に行って、星の子のキットを買ってきました。髪の毛糸はやはり黒にしましよ、きものは星の子の五角形を丁の字型にすればいいわね・・・と、わくわく考えつつ、程なく生まれたのは右の人形。ゼロから考えるより、星の子から思いついたのが、案外さくさくっとできた理由？
可愛いっ！(親ばかりです)



みなさんも作ってみませんか、まりーさん考案のおひなさま。座った形で、高さ11cmです。2月中のみ、キットをご用意しています。ヴェロアの色は、上の写真のブルーとピンクのセットです。価格は「星の子」キットと同じで2体分、1750円です。

がらがらどんのキットはご存知でしょうか？「三匹のやぎのがらがらどん」は北欧の民話です。絵本のマーシャ・ブラウンの絵が素晴らしいですね。キットには含まれませんが、トロールも羊毛で作るとなお、楽しいのでは？キットの価格は2800円です。今回この詩だよりをご覧いただいた方に、2月中に限り、お一人、ひとつ、10% offでお分けできます。まりーさんのツル集めの時のわくわくする気持ちごと、お手元に届きますように！

ウォルドルフ人形の四季展

2月26日(土)~3月6日(日) 10時~18時(火曜・水曜定休)

Hands on Toy's キンダーリーブ 小樽市住吉町4-4 TEL 0134-24-1031

ー昨年、スウェーデン大使館で展示されたお人形たちを展示します。四季折々、季節感あふれる情景の中のウォルドルフ人形たちをご覧いただけます。人形の洋服など、ご自身でも取り入れられるアイディアが見つかるかもしれません。会期中3月5日(土)には人形講習会を致します。ご希望の人形をそれぞれのペースで作ります。この機会に手仕事に参加なさいませんか？予約制ですので、お店に直接お申し込みください。
村本泰江

ぱたぼん通信

パテンレース

パテンレースはドイツで生まれた手工芸品で、明治20年頃に横浜に伝わり、その後地方に広まってきました。以前は、ピアノカバーやテーブルセンターなどサイズも大きく、高価なものが中心でしたが、現在は洋服のえり元、裾やバックなどのワンポイントとしても使われ、材料も手に入りやすくなったので自分で手作りされる方も増えているようです。

パテンレースはブレードと呼ばれる専用のテープ状のレースを、図案が描かれた台紙に縫いつけ、一針一針柄をつくり細工をほどこしていきます。

私の住む新潟県上越市では明治25年頃に伝わり、地場産業として発展、存続してきました。昭和50年代頃までは地元の多くの女性たちが内職で作っていて、私の亡くなった祖母もその一人でした。私が人生最初に出会った手仕事がパテンレースだったと今になって思います。雪の季節になると、子どもの頃こたつに入って、祖母がパテンレースを作る手の動きをじっと見つめていたことを思い出します。冬以外でも、農閑期には作っていたのですが、雪に閉ざされた家の中の暖かいこたつとパテンレースは、私の記憶の中に強く残っています。小学校高学年の頃には、簡単な柄を作らせてもらったこともありました。



子どもが生まれ、ウォルドルフ人形と出会ったことが、私の手仕事との出会いとずっと思ってきましたが、生まれ育った土地に戻って9年、記憶の底にパテンレースという手仕事の原点があったように思います。

ドイツで生まれたパテンレースが、雪深い上越の地で受け継がれていることにあらためて感動し、自分も受け継いでいく一人になりたいと思っています。

志村智美(新潟県上越市在住)

「スペース ペレのあたらしいふく」2月の開店日

1日(火)~15日(火)(日曜・祝日を除く) 10:00~16:30

♥ スウェーデンひつじの詩舎 ♥

スペース ペレのあたらしいふく
〒244-0001 横浜市戸塚区鳥が丘 15-2
TEL&FAX 045-881-6900,6665

佐々木のアトリエ TEL&FAX 045-811-6708
相談窓口(金) 寺田裕子 045-881-7035

スウェーデンひつじの詩舎のホームページ
<http://www.s-hitsuji.co.jp/>

編集担当 佐藤治子